

しまんと

発行：四万十町教育研究所

第110号（通し番号）

令和7年3月18日 発行

厳しかった寒さも少しずつ遠ざかり、春の訪れを感じる今日この頃、学校関係者の皆様におかれましては、年度末のお忙しいことと思います。

本年度も教育研究所、教育支援センターの各事業にご協力いただきありがとうございました。先日は運営委員会でスクールソーシャルワーカーが受けた相談や、発達教育支援員が訓練した件数やその内容について報告させていただいたことでした。数々の支援や訓練を行ってきましたが、残念ながら件数については増加の一途です。しかし、あきらめることなく、支援してきたことで、好結果となったこともありました。特に教育支援センター通室生の進路が決まったときは、ほっとすると同時に感動しました。進路が決まったことはその子の未来につながり、広がったことでもあります。教育研究所、教育支援センターは、今後も安心して過ごせる場所、自分の将来を考える場所として存在し続けてまいります。来年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

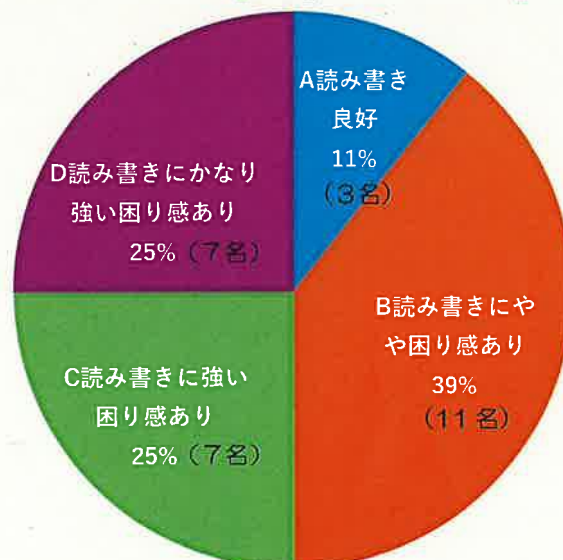
四万十町教育研究所 所長 野村泰子

発達教育支援員(ST)の活動とまるぐランド実施報告

さて、昨年度より教育研究所に発達教育支援員（西田言語聴覚士）が在籍しており、発達障害や学習障害等で学習に困難のある児童生徒に対して訓練を行っています。本年度は発達特性に合わせて読み書きの課題に取り組むことができるベネッセの ICT 学習「まるぐランド」を訓練の中で実施してきました。訓練対象者は年度当初と年度末にチェックテストを実施し、その結果は学校に提供していますが、総合成績の割合を報告させていただきます。

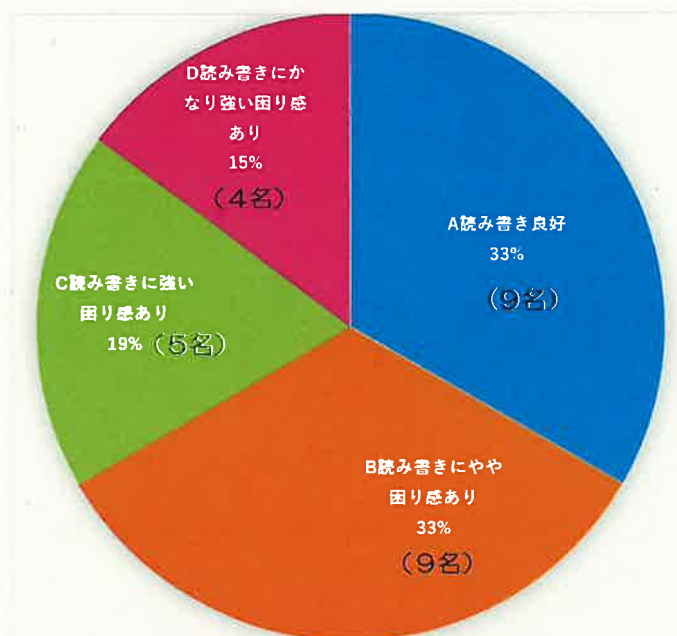
まるぐランドチェックテスト総合成績の割合

■ A読み書き良好 ■ B読み書きにやや困り感あり ■ C読み書きに強い困り感あり ■ D読み書きにかなり強い困り感あり



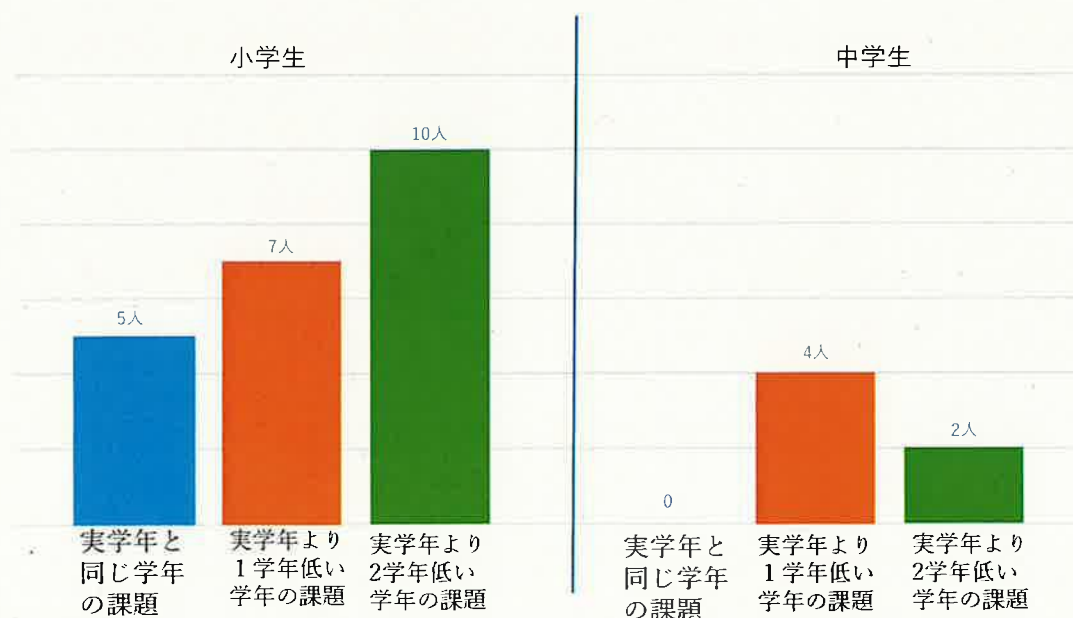
年度当初実施分
対象児童・生徒数
28人

まるぐランドチェックテスト2回目結果（27名分）



※1回目のチェックテスト実施後に新たに訓練を始めた児童生徒がいたり、反対に年度途中で訓練終了となった児童生徒がいたりした関係で、1回目とは一部の実施児童生徒が変わっています。

まるぐランド課題実施状況



活動の成果と課題

- 成果**
- ・中学生は授業に向かう姿勢や定期テストでの点数上昇を目指す姿勢が出現している。
 - ・構音不明瞭な小学生の構音が発音できる音が増加し、明瞭度も向上している。
 - ・1名が終了となった。
 - ・訓練実施児童数が増加した。
 - ・まるぐランドのチェックテストの結果を学校に提供できた。
- 課題**
- ・実人数が30名を超え、各学校複数名の実施となり調整が難しくなっている。
 - ・算数障害や英語課題の希望が多くなっている。
 - ・重度障害の児童への目標設定や課題が難しい。



今後の取り組み

- ・ 訪問の継続
- ・ 学校との連携のために、児童生徒の状況を共有できるように、訓練時の変化を具体的に報告する。
- ・ 学習障害につながる児童生徒に早期に対応できるよう調整していく。

先日の運営委員会では、学校からの感想も寄せられました。

- ・ やる気のなかった生徒が、訓練を始めて教科学習に前向きになった。
- ・ 中学校からでも学びなおしができるのだとわかった。(読み書きがスムーズになった)
- ・ 来年も人数が増えるかもしれないけど、ぜひ、お願いしたい。

ということをおっしゃっていただき、大変励みになりました。

移動に時間がかかるという課題もありますが、依頼があればできるだけお応えしていきたいと考えています。そこでお願いがあります。対象の児童生徒が欠席の場合はできるだけ早く連絡してください。また、訓練中は時々でも、先生方がその様子をご覧になってください。できたことを一緒に喜びあってくださいと、次に繋がっていくのではないのでしょうか。よろしくお願いします。



社会科副読本『わたしたちのまち 四万十町』の部分改訂について

社会科副読本『わたしたちのまち 四万十町』が全面改訂されてから4年目となり、来年度は部分改訂の作業を行うことになっています。本年度はその準備期間として、編集委員の選任を行い、編集委員会を2回開催しました。また部分改訂の際、完全デジタル化することも検討するため、児童用のタブレットで副読本(pdf版)を使用して初めての感想や、完全デジタル化についての意見を聞くためのアンケートも実施しました。アンケートの結果も踏まえて完全デジタル化することについて編集委員会の中で検討しましたが、3年生という児童の実態等から紙の副読本が必要であるという結論になりました。今後完全デジタル化していくためには、ネットワーク環境をさらに整えていくことも課題のひとつとなっています。部分改訂については、古くなっている写真や資料の差し替えが中心となります。来年度編集委員の先生方には改訂作業でお世話をおかけしますが、よろしくお願いします。

研究所の取り組みについて協力のお礼

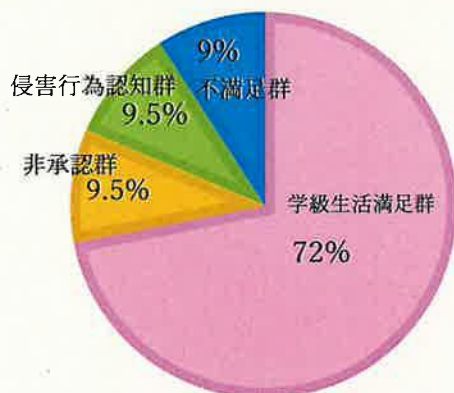


本年度も研究所が関わっての鉛筆の持ち方教室やいのちの学習、QUのデータ提出、副読本「わたしたちのまち 四万十町」に関するアンケート調査等にご協力いただき、ありがとうございました。また研究員が校内研修に参加させていただいたり、授業をさせていただく機会をいただいたりしました。ICTの効果的な活用方法についての提案等、十分なことができませんでしたが、各学校のご理解、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。 研究員 武政仁美

令和6年度 Q-U、hyper-QU アンケートの結果

研究所では、毎年各学校の結果を集計し、町内の児童生徒の傾向を把握するようにしています。本年度も1回目を1学期、2回目を2学期に実施していただきました。それぞれの学校で児童生徒理解や学級集団づくりのための資料とし、全教職員で気になる児童生徒の情報を共有して支援にあたるなどの取り組みをしていただいていることと思います。本年度の四万十町全体の結果をお知らせします。

小学校（R6 1回目）



中学校（R6 1回目）



小学校（R6 2回目）



中学校（R6 2回目）



- ・1学期は小学1年生が実施しなかった学校が4校ありました。
- ・小学校、中学校ともに2回目の学級生活満足群の割合が少し上がっており、不満足群の割合は下がっていました。
- ・小学4年生以上を対象としたインターネットに関する質問「ネット上で友人から悪口や嫌なことをされる」「ネット上で仲間外しや無視される」についても確認をしています。ごく少数ですが、「される」と答えている児童生徒もいました。少年補導センターでは、窪川署と連携しての『SNS 出前教室』を開催しています。来年度も実施予定ですので、ぜひご活用ください。

